

伊敷団地まちづくりニュース

第
2号

～第2回ワークショップを開催しました～

平成31年3月11日発行

市では、若者から高齢者まで多様な世代が暮らす活力ある団地づくりを目指して、30年度からの約3年間で、具体的な取り組みについて検討を進めています。

今回は、2月18日に開催した第2回ワークショップの概要についてご紹介いたします。

第2回ワークショップ

日時：2月18日（月）19時～21時

場所：西伊敷校区公民館

第2回ワークショップの流れ

第2回は、第1回よりも参加者が増え、4つのグループに分かれて話し合いを行いました。

① 団地の魅力と課題とは

鹿児島大学の小山先生に、住宅団地全般の課題や伊敷団地の魅力について講義していただきました。

② 団地の住み心地を評価

話し合いのスタートとして、伊敷団地の住み心地をそれぞれ3段階で評価しました。

③ 魅力・課題について話し合う

これからも伊敷団地で暮らしていくにあたって、「住みやすいと感じている点」「不安・不満を感じている点」を話し合いました。

④ 発表

グループごとに話し合った内容を発表しました。

グループごとに話し合いを進めることで、短時間でたくさんの意見交換を行うことができました。次回は今回の意見を踏まえて、伊敷団地で「もっと伸ばしたい」「改善したい」ところを話し合います。



話し合いの様子



発表の様子

次回のお知らせ

【第3回ワークショップ】 団地の魅力や問題をまとめてみよう！

日時：平成31年4月23日（火）19時～21時 場所：西伊敷校区公民館

皆様のご参加、ご意見お待ちしております！

※ワークショップとは…話し合いを通して、自由なコミュニケーションを行いながら、何かを作り上げていく手法の一つです

団地の魅力と課題 – 団地を住みこなすために –

鹿児島大学（建築学専攻）の小山先生からご講義いただき、住宅団地全般の課題や伊敷団地の魅力について解説していただきました。

■ 講演の内容（あらすじを簡単にご紹介しています）

団地の未来を考えるきっかけとして、団地の**成り立ち**を考えてみましょう。

昔の地図を見ると、伊敷団地では1971年から1975年までの**短い期間に、たくさんの住宅が建設**されたことが分かります。

団地の中央には、スーパーを核としてお店がまわって、学校や公園なども整っています。

開発当時の整備方針は「**分離する（分ける）**」こと。職場や工場等と住宅を分けることによって、住環境をまもるねらいがありました。

今では、伊敷団地の高齢化率は4割に達していますが、他の団地に比べて、**子供世代が戻ってきている可能性**があります。

一方で、団地は子育て期の「**家族**」の暮らしを前提として形成されました。

そのため、高齢者にとって暮らしにくい部分も出てきています。

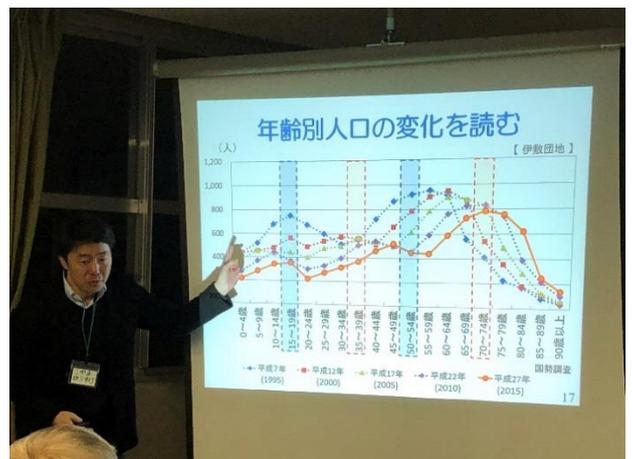
変化（高齢化）に対応しつつ、団地に住み続けられるようにするためには、「**団地**」を「**まち**」にすることが**重要**です。

持続する「**まち**」の条件のひとつは、多世代（子どもからお年寄り）や多用途（保育所、高齢者向け施設等）が「**まざっている**」こと。

まち（団地）を知り、関係者がお互いを知る、まずは、そのための「**場づくり**」が**大切**です。



小山先生による講演



伊敷団地の年齢構成を解説する様子



皆さん熱心に先生のお話を伺っています

西伊敷まちづくり協議会では、5月の総会に合わせて、「小山先生による特別講演会」を予定しています。

団地の魅力や問題について話し合おう！

これからのワークショップに向けて、意見交換したところ、様々な意見が出ました。

次回のワークショップでは、今回出たキーワードをもとに、団地の魅力や問題について掘り下げて意見交換を行います。

「団地で**住みやすい**と感じていることや、**不安・不満**を感じていることはありますか？」という問いかけに対して、意見交換を行いました

■ワークショップで出し合った皆さんのご意見（ご意見を多く頂いたものを抜粋しています）

住みやすいと感じている点

<交通>

- ・他の団地と比べると、バスの便がよい
- ・都会と比較して中心地から近い
- ・高速道路の乗り場が近い
- ・空港や高速道路へのアクセスが良い

<施設>

- ・団地の中心に商業集積あり賑いがある
- ・スーパー・銀行等が近い
- ・一通り店がそろっている
- ・住むだけなら団地内で完結できる
- ・居酒屋で飲んでも歩いて帰れる
- ・店舗経営者が職住一体もしくはは近接

<住環境>

- ・静かな住環境
- ・緑がいっぱい（田舎も都会も味わえる）
- ・公園が近い、多い
- ・一部の地域を除き、平坦が多い

<子育て環境>

- ・子供が大切にされる環境
- ・パトロールを十分にしてくれる
- ・子どもの見守りをしてくれて安全

<人づきあい・地域活動>

- ・長年住んで友人知人が多い
- ・顔が見える関係
- ・ご近所の方がとても親切
- ・地域全体で仲が良い
- ・愛着がある
- ・近隣の人との人間関係が良好
- ・町内の方々が協力的である

<その他>

- ・若い人の受け入れを歓迎している
- ・Uターン者が多い
- ・地価が安い

不安・不満を感じている点

<交通>

- ・公共交通機関の利便性が悪い
- ・バスの便数が少ない
- ・バス停が遠い
- ・朝早い時と夜遅い時の交通（バス）が不便
- ・市街地からのアクセスに時間がかかる
- ・車の運転ができなくなったときの交通手段が心配

<施設>

- ・飲食店が少なくなった
- ・商店が一部の地域に片寄っている（離れている所では買い物不便）
- ・病気になった時が心配
- ・車の免許がなくなった時の買い物や通院
- ・図書館や本屋など文化的な刺激が少ない
- ・集会所が少ない（福祉館に予約が集中してしまう）

<住環境>

- ・夜暗い
- ・坂が多く急である
- ・公園にトイレがある所が少ない
- ・働く場所が団地でない、付近にない

<少子高齢化>

- ・子供が少ない
- ・子供の声が聞こえない、活気がなくなった
- ・お年寄りの一人暮らしが心配

<人づきあい・地域活動>

- ・若者との接触が少ない
- ・世代間のギャップが有る
- ・昔からいる人たちの仲が良い分、団地に新しく転入した人は地域へ入りにくい
- ・町内会役員のなり手が少ない
- ・町内会組織が成り立っていないかどうか不安
- ・民生委員がいない

<防犯>

- ・交番がない
- ・空き家の増加
- ・人が少なくなり防犯など心配

<その他>

- ・意見をどこに投げかければいいのかかわからない

そもそも「団地の活性化」とは？（国土交通省による取組みイメージ）

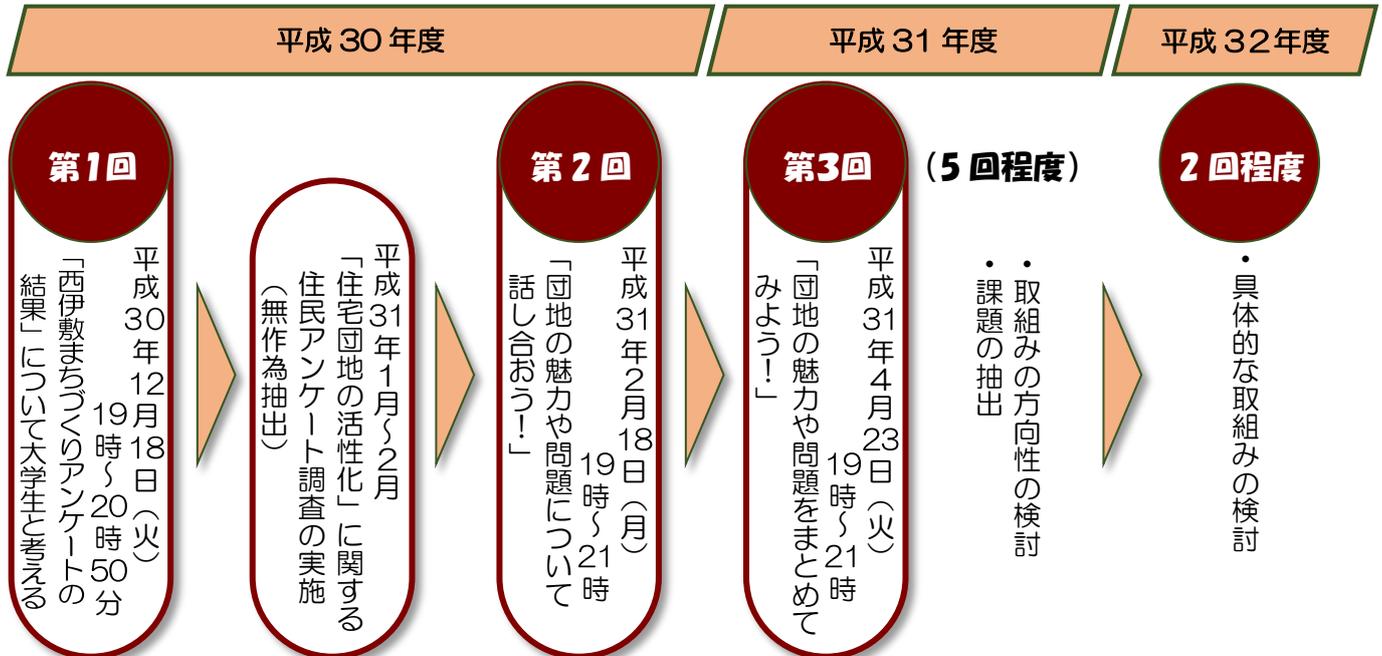
第2回では、初めてご参加いただいた方が半分以上いらっしゃいました。そこで、国土交通省による団地活性化の取組みイメージを改めてご紹介します。

「団地の活性化」の取組みイメージ [国土交通省 住宅団地の再生のあり方に関する検討会(第2期)]



「団地の活性化」のために地域の方々とワークショップにて検討を行い
具体化な取組みにつなげていきたいと考えています。

■ 検討スケジュール（ワークショップ等）



- 鹿児島市 都市計画課（担当：井上^{いのうえ}、諏訪田^{すわだ}）
連絡先：099-216-1378 FAX：099-216-1398
メール：toshikeikaku@city.kagoshima.lg.jp
- ランドブレイン株式会社 鹿児島事務所（業務受託事業者）
連絡先：099-210-9091（担当：大脇、岩切）